高退協文芸

俳句

花蘇鉄の四季

小澤　幸泉

つるし柿ゆっくりひとつまたひとつ
あの人は達者で居るか秋の山
見上げれば秋の夜空に星一つ
コスモスの彩とりどりに咲き競い
秋深し先き逝く友を追いかける

川柳

帆傘抄

小澤　幸泉

初キッスどおい思い出よみがえる
怒ること決して忘れぬ終戦日
血塗(ぬ)られた戦の跡に手を合わす
しみるなあ五十年の妻の味
妻と二人褒(ほ)めも文句も分けあえる
この海の果てに亡(はは)(祖)母住む国がある
気がつけば古里見えぬ老いの窓
いつからか阪神ファンになっている

短歌

王希奇(ワンシーチー)「一九四六」高知展

叶岡淑子

横二十縦三メートルの迫真の大作絵画は歴史の証言
加害国日本の民衆子どもらを描きし被害国の画家王(ワン)氏
国を越え戦争の非を語り継ぐ企画展への称賛の声

ミャンマーはいまも

田上悦子

チン州の家屋教会焼かれるとニュース細ぼそミャンマー伝える
デモ隊の五人またもや殺されて「弾圧続く」と今朝のニュースに
本人の希望してより何十年かアウンサンスーチー正しき名前に

※高知新聞その他に「おとわり」として「ミャンマーの人の名前は姓名の区別がないので、今後は現地の表記に合わせて原則「・」を省いた形に変更します。アウン・サン・スー・チー氏はアウンサンスーチー氏となります。」という記事がつい最近（12月1日）になって載りました。

八十歳になりて

山本晶子

吾(あ)が庭の二本の桜切り倒し八十歳(はちじゅう)にて終活始む
せっけんを作らんと思(も)い溜めおきし三升の廃油紙に吸わせたり
八十歳(はちじゅう)まで生きえしことを寿(ことほ)ぎて屠蘇酌みかわす初春の朝

第186回高退協読書会案内

2月17日（木）14時～　　ムトー荘2Ｆ（２０６号室）
テキスト　**ユートピア**　（岩波文庫）
トマス・モア（著）　平井正穂（訳）

※本書を、単なる理想郷として読むことはできない。五百年を経た今も議論のある宗教への寛容、犯罪と刑罰、尊厳死を含む死の在り方、戦争や戦闘行為の否定と自衛権の容認など解決すべき課題は多い。表題の「ユートピア」とは「どこにも無い」という意味のトマス・モア（1478～1535）の造語である。モアが描き出したこの理想国は自由と規律をかねそなえた共和国で，国民は人間の自然な姿を愛し「戦争でえられた名誉ほど不名誉なものはない」と考えている。社会思想史上の第一級の古典であるだけでなく，読物としても十分に面白い。　（ネットでの推薦文を引用しました）

参加費　六百円（会場　使用料）参加希望者は直接お越しください。
お問い合わせは次の方々のいずれかにご連絡ください。
樋口勇雄　高橋泰宏　小島真子　大川法由記　井上圭介　三谷隆彦

ペン1本　人を愛す、瀬戸内寂聴

99歳で亡くなり、11月12日の朝日新聞は1面と13面、12面、13面全面「女性自立と反戦への情熱」「戦争にいい戦争はない」＝愛する人と別れること、それが戦争。命ある限り、戦争の恐ろしさを伝える」「青春は恋と革命」「100冊の本を読むより1回の恋愛」との記事を掲載。翌14日には、社説「寂聴さん逝く　貫く自分時代への教え」を掲載し、冒頭に、「作家とか僧侶とか、まして文化勲章とかの説明は不要」と書いた。

その中で、400冊を超える自作の中で、今も読んでもらいたい本を一つあげようとしたら、迷いなく即座に、「美は乱調に在り」「諧調は偽りなり」という彼女のことばを紹介している。この本は寂聴がよく書いた女性の伝記であり，「元始女性は太陽であった」の創刊の辞でしられる「青鞜」の編集に携わり、関東大震災の混乱の中、夫と共に官憲の手で虐殺された伊藤野枝の伝記であり、このほかにも大逆事件で死刑になった菅野須賀子の伝記などもある。

田村俊子賞「（田村敏子）」、女流文学賞（「夏の終わり」）、日本文芸大賞「源氏物語　全10巻」、朝日賞
徳島ラジオ商殺し事件支援　湾岸戦争に反対して断食　イラク戦争に反対し意見広告　京都9条の会呼びかけ人、さよなら原発10万人集会に参加、安全保障法集会に病気を押し命がけで車椅子参加

追悼番組も多く組まれている。

「瀬戸内さん　池上彰と日本を語る」（BS8）　NHK　4回

朝日歌壇（2021　12　12）にも次の句が掲載されている。

人生に余生などない　最後まで書くこと止めず逝きし寂聴
ありのまま「愛した、書いた、祈った」と激しき銘を残した寂聴
悩れっぽい天使が地上に堕ちてきて天に帰りぬ瀬戸内寂聴
太陽のごとき笑顔で語りたる寂聴法話もはや聞かれず
母親が炊事しながら聞いている寂聴さんの法話のテープを
今頃は黄泉の国では寂聴さん歓迎会の最中だろうか

娯楽的・楽しい読書と宮部みゆき

膝と腰に黴菌が入り長期入院、何度かの骨折で短期入院。この退屈な時間を紛らわせてくれたのは、事件もの・推理小説であり、最も楽しかったのは「我らが隣人の犯罪」でデビューした宮部みゆきの作品であった。彼女には日本社会の問題点をえぐったミステリー小説と、それにつかれて書き始めた時代小説がある。新聞広告（11月一一朝日）に「長い長い殺人」が異例の143万部を超えて売れていると掲載されている。

時代小説は「お初シリーズ」「ぽんくらシリーズ」「三島屋百物語シリーズ」に分類されるだろう。ここではその中の受賞作品を挙げるにとどめる。

「龍は眠る」――日本推理作家賞　「火車」――山本周五郎賞　「理由」――直木賞
「模倣犯」――毎日出版文化賞　「名もなき毒」――吉川英二文学賞

おわりに

土佐は自由民権の土地。植木枝盛が高知新聞に「男女同権ハ海南ノ某一隅ヨリハジマル」と書いたように、日本で最初の女性の参政権を生み出した地域もある高知県の女性史にも触れなければならないがここでは割愛する。ただ日本女性で初めて女性参政権を要求した**楠瀬喜多**は有名で、高知市上町2丁目に「婦人参政権発祥の地」が建立されているのを紹介するにとどめる。

最近、娘に車椅子を押してもらって、中国人の画家王希奇の「一九四六」という美術展を見に行った。日本敗戦後、旧満州にいた悲惨窮まる155万人の日本人の引き上げの時、母親の骨箱を抱えた子供を目にした王希奇は「戦争ではいつの時代も弱者が苦しむ。彼らも戦争の被害者だ。」という強い思いで心の葛藤を乗り越えて、引揚船に乗る数百人の姿を描き出した、縦3メートル横20メートルに及ぶ大作を描いた。この「一九四六」は心にしみた。中国は日本の軍国主義者と民衆を区別し友好と平和を願った。この絵の背景にはその願いがある。

感動しながら帰ろうとしたとき、出口で、運営に関わっている**胡塁崎ゆう子**さんと出会って嬉しかった。数学に強くソロバンが達者で、高教組の書記として、当時、人事院勧告完全実施・ベトナム戦争反対を掲げストライキを闘い、賃金カットの処分を受け、救援の膨大な仕事が生じたとき、その作業をしてくれた人である。書記長の私はどれだけ助かったかしれない。今も平和と民主主義のためのたたかいを続けている人である。こういう人が「ガラスの天井」を破っている。

「元始、女性は太陽」であり、無数の人々が差別の「ガラスの天井」を破る闘いを続けてきたが、この文章は、表題にも書いたように、私が最近、本（読書）で出会った人々などに触れただけのものである。

人はみな　なにかにはげみ初桜　（深見　けん二）